

頸部背後方屈曲を示す鶏群の交配成績と孵化前後の筋病変

金谷俊平 御領政信[†] 佐々木 淳 岡田幸助

岩手大学農学部 (〒020-8550 盛岡市上田3-18-8)

(2008年12月18日受付・2009年8月21日受理)

要 約

市販鶏由来の頸部背後方屈曲（頸曲がり）を示す鶏群を交配させ、継代3代目の孵化前後のひなと鶏胚について病理学的に検索した。頸曲がりあるいは起立困難などの発症率は最大62.5%となり、継代により著しく上昇した。病理組織学的には錯綜筋に限らず、頸部を含む全身各所の骨格筋に筋束間水腫、筋線維の大小不同、硝子様変性、筋貪食などの筋病変が高率に認められた。継代により臨床症状および筋病変の発症率が増加することから、本疾患は遺伝性であることが示唆された。また、病変は骨格筋組織のみに分布していたことから、本疾患の特徴的な臨床症状は筋病変に起因するものと思われた。——キーワード：頸曲がり、遺伝性疾患、交配、筋症、病理。

----- 日獣会誌 63, 119～124 (2010)

[†] 連絡責任者：御領政信（岩手大学農学部獣医病理学研究室）

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8 ☎019-621-6217 FAX 019-621-6274 E-mail: goryo@iwate-u.ac.jp